資料２

会　議　録（案）

会議の名称	西東京市教育計画策定懇談会（第５回）
開催日時	平成 30 年２月 16 日(金)　午前 9 時 00 分から午前 11 時 00 分まで
開催場所	西東京市役所保谷庁舎別棟Ａ・Ｂ・Ｃ会議室
出席者	【委員】遠藤委員、服部委員、川村委員、三橋委員、田中委員、本名委員、大橋委員、武藤委員、渡邊委員、石田委員、伊藤委員 【欠席委員】浅沼委員、山村委員 【事務局】南里特命担当部長、早川教育企画課長、内田教育指導課長、等々力学校運営課長、福田教育部主幹（教育指導課）兼）統括指導主事、清水教育支援課長、岡本社会教育課長、大橋公民館長、中川図書館長、宮本統括指導主事、和田企画調整係長、齋藤企画調整係主事、利根川企画調整係主事、 【傍聴人】０人
議事	（１）計画策定におけるヒアリング調査報告について （２）西東京市教育計画（平成 26 年度～平成 30 年度）に掲げる施策の進捗状況について（平成 26 年度～平成 28 年度） （３）新たな西東京市教育計画の方向性の抽出について（ブレーンストーミング） （４）その他
会議資料	資料１　西東京市教育計画策定のためのヒアリング調査報告書（案） 資料２　西東京市教育計画（平成 26 年度～平成 30 年度）に掲げる施策の進捗状況（平成 26 年度～平成 28 年度） 資料３　新たな西東京市教育計画の方向性の抽出について
記録方法	□全文記録　☑発言者の発言内容ごとの要点記録　□会議内容の要点記録

会議内容

（１）計画策定におけるヒアリング調査報告について

事務局（委託業者）
西東京市教育計画策定のためのヒアリング調査報告書（案）（資料１）について説明

Ｇ委員
教員アンケート調査の中で一番課題だと感じていることとして、家庭の教育力の低下が 39.5％という数字が出ている。私も育成会や学校施設開放運営協議会、公民館、子ども食堂等で子どもたちを見ていると、子どもの問題の背景には家庭があると感じる。

Ｃ委員
教員アンケート調査の中で負担感を感じている業務の２番目に保護者・ＰＴＡ対応が来ているが、その現状が見えてこない。顕著に学校の先生方の大変さが出ているところかと思う。

座長
私も実際に校長を経験していて、現場でよく感じていたところがある。

Ｊ委員
保護者の方に対する対応の全てが負担だということではない。例えば、保護者同士の人間関係に起因して、子どものクラスを分けてほしいなど、多様な要望があったりもする。

Ｋ委員
　保護者対応というものはかなり多い。子ども同士でのトラブルがあったときに、担任や自分たちの力で解決するべきところを、担任にも言わずにまずは親に伝え、親がそれに反応して、学校に電話してくるという流れになってしまうことが非常に多い。保護者には、「子ども自身に考えさせてください。」と言っている。それでも解決がむずかしいと思えば、話をいただきたいといっている。

座長
　私は３つの区や市で管理職をしていた。管理職も含めて、教員は通常の保護者対応を負担に感じているわけではない。例えば、子どもが勉強で分からないと言っているという保護者に対して丁寧に対応し、どのようにしていけば良いかを考えていくことは通常のことであるが、ときには理不尽な要求をしてくる保護者がいる。そのような保護者に対して通常の対応をしようとしても通用しないことがある。

Ｉ委員
　ＰＴＡというのは、違う環境や考え方を持つほかの大人と出会う、親自身の社会教育の場だと思う。子どもの生活の場をつくるのはまずは親たちだが、そのことを学ぶ機会がない。親の考え方等は先生や教育委員会が手の出しようがない部分である。
　幼稚園へのヒアリングの部分で「小学校に入ると何もできない赤ちゃんのような対応されてしまう。」とは、どのようなことか。

Ｃ委員
　幼稚園の５歳児は、最終的には子どもたちが生活を自立していく気負いを持つというところが最終目標だと思って保育をしている。５歳児は非常に生活能力が高く、自分たちで様々なことを解決していく力もある。小学校の先生からすると、いろいろな幼稚園や保育園からの子どもが入学するので、あまり自分で考える余地のないような生活をさせてしまうと感じることがある。

座長
　それは小学校の教員の課題である。１年生の担任が幼稚園や保育園を卒園してきた子どもたちの実態を理解できていないこともある。幼・保・小の連携という視点で、大事な指摘だと思う。

Ｊ委員
　多忙な中でも、幼稚園や保育園との情報交換を密にしたい。

座長
　幼稚園へのヒアリングの中で、「自分の子どもの喜びだけでなく、人の子の喜びも一緒になって喜んでくれる保護者が多いように感じる。」ということが非常に大きなポイントではないか。このような保護者の力により、子どもたち全体が成長できるようになると良い。

（２）西東京市教育計画（平成 26 年度～平成 30 年度）に掲げる施策の進捗状況について（平成 26 年度～平成 28 年度）

事務局
西東京市教育計画（平成 26 年度～平成 30 年度）に掲げる施策の進捗状況（平成 26 年度～平成 28 年度）（資料２）について説明

（３）新たな西東京市教育計画の方向性の抽出について（ブレーンストーミング）

（３グループに分かれてブレーンストーミングを行い、その後発表を行った。）

１グループ
学校教育について、良いところ、残したいところは、子どもたちの個性を尊重するというところ。改善点としては、子どもたちの自己表現力を伸ばす、主体的に対話的にできるところを伸ばすところにもう少し力を入れてほしい。他には、保護者と先生の連携を充実してほしい。新たに取り入れたいところはキャリア教育の拡充。自分はどのように生きていくのか等を新たに取り入れてはどうか。家庭教育については伴奏型支援ということで課題がある家庭の保護者に対する支援が必要ではないか。子どもへの支援の在り方として、誰でも安心して、子どもを育てられるようにということで切れ目のない支援の構築が必要ではないかという意見が出ている。生涯学習については、様々な年齢層の人が参加しやすい講座、または公民館の更なる機能の充実や公民館以外で、空き家等を活用して活動できる場を増やすということも必要ではないかという意見が出た。

２グループ
例えばおやじの会などの、地域・保護者の力を活用していきたい。キャリア教育も大切にしたい。幼・保・小・中の連携も重要である。両親が共稼ぎの家庭が増えると、放課後子ども教室等の環境も必要だと思う。また、マイチャイルドからアワーチルドレンへというキーワードで、子どもたちを地域で育てましょう、という意見も出た。

３グループ
学校教育について、良いところとしては給食の地産地消や、掃除の文化などが出た。改善すべき点として、スクールカウンセラーの常駐化や、担任以外が生徒を見守る体制の整備、読書活動の推進、教員の保護者対応への支援体制、特別支援の相談の充実などがあげられ、また、ＩＣＴ活用のための整備が不十分だという意見もあった。部活動の外部指導員の増加は教員の働き方改革につながる。放課後の居場所の充実について、学校の教員が関わるのではなく、地域の方々が学校を活用して行うような制度が良いと思う。新たに取り入れたいこととしては、幼・保・小の連携、子育てを孤独にしない仕組み、不登校の子どもの居場所づくり、また、西東京市の文化をもっと活用できればと思う。公民館について、小・中・高校生が活用できる企画がもっとあると良い。

（４）その他

次回の日程は４月以降開催予定

以上